

令和2年1月30日

井手町新庁舎等建設基本設計・実施設計業務に係る 公募型プロポーザル 評価講評

井手町新庁舎等建設基本設計・実施設計業務プロポーザル方式評価委員会

委員長 宗田 好史

井手町現本庁舎は、昭和43年に建設され、耐震補強済みではありますが、著しく老朽化が進むとともに、洪水浸水想定区域内に位置していることから、これらの問題を解決し、庁舎として防災の拠点機能の強化と行政サービス機能の充実を図り、大規模な自然災害や多様化・高度化する町民ニーズに対応可能な新庁舎の建設及び、国道24号城陽井手木津川バイパスの道路建設に伴い、機能移転が必要となった山吹ふれあいセンターの機能等も集約し、整備することを目指しています。

本プロポーザルにあたっては、「井手町新庁舎等建設基本構想・基本計画（平成30年3月・令和元年9月追記）」における基本方針を踏まえるとともに、新庁舎等が、建設予定地の地理的要件や本町が持つ豊かな自然・歴史、活発な住民活動等の地域資源を活かした新たな交流拠点ともなるよう提案を求めました。

参加表明のあった有資格者15者のうち、技術提案書を提出した11者に対し、令和元年12月27日に技術提案書によるプレゼンテーションに基づくヒアリング審査を実施し、慎重に議論を重ね、評価点数の順に受注候補者として（株）千葉学建築計画事務所を、第2位として（株）オンデザインパートナーズを選定しました。

受注候補者は、「ドマ」と「ニワ」という2つの緩く囲われた空間と周りの景色との関係について、具体性を持った表現で示され、敷地周辺の豊かな景観の魅力が引き出される秀逸な提案であると評価しました。また、特に、受注候補者の提案は、庁舎、山吹ふれあいセンター、「道の駅」的休憩施設及び駐車場のそれぞれの配置計画が、今後検討する上での様々な条件に対応可能な提案であることも高く評価しました。第2位は、敷地の高低差を活用した「いでテラス」が、開かれた交流拠点となる優れた提案であると評価しました。両者とも、井手町の地域特性をよく理解され、この新庁舎等を建設することによって、新たな人の流れを創造し、にぎわいの活性化が見込まれる提案となっていました。

その他の参加有資格者の提案についても、基本方針に沿った提案であり、模型等を活用しながら熱意のあるプレゼンテーションを行っていただきました。本プロポーザルに貴重な時間を費やし、努力いただいた参加者に深く敬意を表します。

なお、プロポーザルは設計者選定の手続きであり、技術提案はそのまま実現するものではありません。今後の設計業務を通じて、住民の誇りとなる新庁舎等の整備が進むことを願っています。